



令和5年度 就学相談に関する園資料

ご提出締切日：令和5年7月3日（月）必着

※締め切り必着ですので、余裕をもって保護者への説明、申込み様式の配布、学校での就学希望に関する相談等を行ってください。

※申込み用紙到着順に日程調整を致します。書類が揃い次第速やかに郵送等にてご提出ください。

※複数の申込み者がいる場合、資料が揃った方から随時ご提出ください。

※本資料は、入学先や転出先の学校へ送付いたします。

※相談日等については、園に別途連絡いたします。

※学校看護師による医療的ケアを希望している場合は、別紙「申請書」「主治医指示書」をご提出ください。

※保護者が通級指導教室（難聴、言語、情緒・LD/ADHD等）に希望順位を記載している場合は、別紙「通級アンケート（小学校用）」をご提出ください。

エクセルの場合：オレンジ色がついている箇所は必須項目です。必ずご記入ください。記入すると色が消えます。

提出先：福岡市発達教育センター

手書きの場合：「園長」「主任」「担任」などご記入ください。
エクセルの場合：プルダウンで役職を選んでください。
「その他」を選んだ場合は（ ）内に記載してください。

記入日 令和5年 ○月 ○日

記入者氏名 地行 浜子
(役職等) 担任 ()

園住所 〒 800-0000 福岡市 ○○区 ○○町 ○—○—○

園（所）電話番号 092-000-0000

在籍園（所）名 はったつ幼稚園

ふりがな はったつ たろう

児童生徒氏名 発達 太郎 生年月日 平成 ○○年 ○月 ○日

ふりがなを忘れずをお願いします。
漢字は正確にご記入ください
(例：崎・崎、高・高、 邊・邊、 斉・齊・齋・齋など)

※委員会使用欄	受付No.		相談会No.	—	—
---------	-------	--	--------	---	---

手書きの場合は忘れずに記入してください。
(エクセルでは1ページ目と同じ氏名が自動で記入されます)

発達 太郎

	在籍園(所)名	期間
① 教育歴	※現在園(所)以前に在籍されていた園がある場合は、園(所)名と在籍期間を分かれる範囲でご記入ください。	
	※現在園(所)に在籍されている期間をご記入ください。	
	現在園(所)	
② 診断名	<p>分かれる場合はご記入ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自閉スペクトラム症の疑い ・二分脊椎 	<p>医療的ケアとは、「たんの吸引」「吸入」「経管栄養」「導尿」などの『日常的・継続的に行われる医療行為』のことであり、退院直後の一時的なケアや救急救命措置は含みません。</p> <p>現在園で医療的ケアを行っている場合は、入学後の希望についてご確認ください。 該当する場合は、忘れずにチェックしてください。</p>
③ 医療的ケア	<input checked="" type="checkbox"/> 学校看護師による医療的ケアを希望します。 *医療的ケアとは、園・所において『日常的・継続的に行われる医療行為』のことであり、退院直後の一時的なケアや救急救命措置は含みません。 *医療的ケアを希望の場合は、別紙「申請書」「主治医指示書」を合わせてご提出ください。	
④ 配慮事項	※特に指導上配慮されている事柄についてご記入ください。 ・こだわりや感覚の過敏さに起因する情緒不安が時々見られる。本児が落ち着くまでは見守っている。 ・導尿については、主に保護者が実施しているが、現在自己導尿の練習中。	
⑤ 就学に関する園の所見	特別支援学級 知的障がい	
	理由:	新しい場所や人への不安があり、慣れるのに少々時間がかかる。また、導尿の練習中ということもあり、小学校入学にあたっては、大きな集団よりも、小集団の中でより配慮のある環境の方がよいのではと考える。 例: 「小集団できめ細やかな配慮のある環境が望ましいと思われる」 「本人の力を伸ばすため、特別支援学級での学校生活スタートがよいと思われる」…等
※以下に該当する場合は、☑をお願いします。(希望が特別支援学級または特別支援学校で、第一希望のみ記載)		
<input type="checkbox"/> 保護者の就学に関する希望は、迷いがなく明確であり、園での児童の実態からも保護者の希望通りの就学が妥当であると考えられるため、就学相談会の面談を行わず、電話による確認でも差し支えないと考える。		

手書きの場合は忘れずに記入してください。

(エクセルでは1ページ目と同じ氏名が自動で記入されます)

発達 太郎

◆各項目における状態をチェックし、支援や配慮、自立状況等についてご記入ください

【自立：支援等を要さない 要配慮 要支援】手書きの場合：あてはまる箇所の○を塗りつぶしてください。

(1) 身辺処理について エクセルの場合：あてはまる箇所にチェックしてください。

ア 食事 自立 要配慮 要支援 ※偏食、アレルギー等がある場合は必ず記入

初めての食感には拒否感を示すため、保護者とメニューについて情報共有している。

イ 着脱 自立 要配慮 要支援

大人がいると甘える所があるが、手先が器用で、ボタンをかけるのは上手である。

ウ 排泄 自立 要配慮 要支援

主に保護者が導尿しているが、自己導尿の練習中である。

(2) 対人関係について 自立 要配慮 要支援

具体的状態

年下の子どもにはとても優しく接することができるが、同年齢児が相手になると強い口調で思いを通そうとすることがある。本人の趣向に合わせた遊びや活動に対しては親和的な態度で受け入れることがある。

(3) 意思の伝達について 自立 要配慮 要支援

具体的状態

自分の欲求、経験を言葉で伝えようとするが、言葉足らずになりやすく伝わりにくい。伝わらない時には黙って固まっていることが多く、代弁などのサポートが必要である。

(4) 集団参加について

ア 一斉指示の理解 自立 要配慮 要支援

指示を理解しているというよりも、周囲の行動を見て理解しているようである。その様子から、一生懸命話を理解しようという姿勢が感じられる。

イ 教師の指示に従って行動する力 自立 要配慮 要支援

個人的な指示(手伝いなど)について具体的に伝えると応える力がある。手伝いに対して感謝を伝えると嬉しそうな表情を浮かべる。

ウ 集団活動への参加 自立 要配慮 要支援

活動への興味関心、嫌悪感などの状況次第で参加意欲が左右され、事前に拒否することが多い。興味が高い活動への集中力は高い。

エ 登園状況 特記事項なし 不登園傾向

季節の変わり目に体調を崩しやすく欠席が多くなる。体調面以外の理由で登園を嫌がることはない。

⑥園(所)での生活のようす(その一)

手書きの場合は忘れずに記入してください。
(エクセルでは1ページ目と同じ氏名が自動で記入されます)

発達 太郎

⑥園(所)での生活のようす(その2) ※記入に当たっては幼稚園教育要領・保育要録を参照

	本児の様子	支援内容
健康	<p><運動、健康・安全等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に筋緊張が低く、姿勢保持の難しさや運動のぎこちなさがみられる。 ・運動に関しては関心が低く、自信もないように消極的な場合が多い。 ・一日2回保護者による導尿の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の関心事を盛り込んだ、身体的な活動を行う。 ・スモールステップの取り組みの中で自信を少しずつ高め、活動への意欲を促す。 ・自己導尿練習中。
人間関係	<p><行動面等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分より幼い子に対して関心が高く、優しく接することができる。 ・同年齢児に対しては、一方的な関わりが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同年齢児への関わり方は、その都度モデリングをするなどして適切な関わり方を示す。 ・適切な関わりが出来た時は、その場で具体的に何が良かったのか伝えている。
環境	<p><数量・文字等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・数字や文字、記号への関心が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数に関することは関心が高いため、モチベーションを上げる題材として活用できる。
言葉	<p><理解、表現等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な言葉の理解はあるが、意思表示が一方的な面やあまのじゃくな反応など、コミュニケーションの不適切さが顕著な場面がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・質問や応答で会話する機会を増やし、友達とのやりとりの中で良好な人間関係を作ることが出来るようにする。
表現	<p><絵画・造形、音楽等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・描くことへの興味関心が薄く、大人に代わりに描いてもらうことを要求する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本児の好きなキャラクターを大人が描くことで、描くことへの興味関心を広げていく。
特記事項	<p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新奇場面や非日常的な場面が非常に苦手であり、固まってしまうたり泣き出してしまったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カードを使って事前に呈示し見通しを持たせるとともに、大人とのかかわりの中で受け入れられる場面を増やしていく。